



ピッポ新聞

2004
11
No. 193

子どもの本専門店

年間購読料 (送料込み) 1500円
編集・発行 伊藤俊男

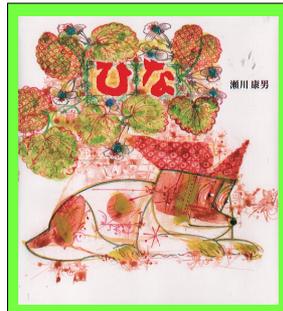
ピッポ

〒424-0886 静岡市清水草薙1-6-3
TEL & FAX 0543-45-5460

URL <http://www.pippo.co.jp>
Email pippo@diana.dti.ne.jp

ねー、この本読んだ？

この時期はクリスマスシーズンを前に出版社も新しい本を次つぎ出版します。そこで新刊を中心に紹介します。品切れになっていて、重版されたものも一部含まれます。

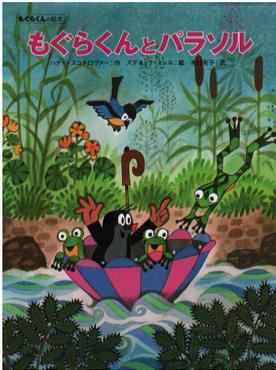


『ひな』(瀬川康男・作 945円 童心社)
こいぬのひなはとも知りたがり屋さん、出会う

も同時発売

たものが何であるかを確かめます。かえるがどんなものかをしるために、嗅いでみる、かんでみる、おいかけてみる。次に出会ったのは・・・。シリーズの『ひなとてんぐ』2才ぐらいから

『もぐらくんとパラソル』(ハナ・ドスコチロ



ヴァー・文ズデネット
ク・ミレル・絵 紀村有子・訳 1260円 偕成社)

もぐらくんはゴミの捨て場でみつけたパラソルを修理しました。パラソルも喜んでもぐらくんと空に浮かび上がりました。次にパラソルはパラシュートの替わりになって、

下りてきました。下りたところが、おつとあぶない！水の上、今度はボートになって・・・。楽しいもぐらくんとパラソルの冒険です。
3才ぐらいから

『アンジェリーナのクリスマス』(キャサリン・ホラバード・文 ヘレン・クレীগ・絵 おかだよしえ・訳 1680円 講談社)



クリスマスを間近に控えて、アンジェリーナ

はバレーの練習で帰りが遅くなりました。すると、明るい町の家々の中で一軒だけ暗い家があるのに気が付きました。その家には年取ったおじいさんが住んでいました。おじいさんは昔、郵便配達をしていま

したが、今はひとりぼっちで暮らしています。アンジェリーナは、お父さんや弟とその家をたずねたのです・・・。優しいアンジェリーナの心温まるお話 4歳ぐらいから

『どつぶつさいばん ライオンのしごと』(竹田津実・文 あべ弘士・絵 1470円 偕成社)

ヌーを殺したライオンを裁くために草原の動物たちが集まってきました。お母さんを殺されたヌーの子が訴えます。これを弁護するハゲワシは「ライオンはいつも弱った動物しか殺しま

せん」と・・・。自然の摂理を小さい子



にもわかりやすく説明した絵本 文を書いた竹田津さんは獣医さん、絵を描いたのがもと動物園の飼育係のあべさんというコンビが野生動物の優しい眼差しで創った絵本 5歳ぐらいから

『サンタさんにあっちゃった』(薫くみこ・文 colobockle・絵 1155円 ポプラ社)



クリスマスやサンタさんがきらいな子どもがいるとおもいますか?この絵本に出てくる二人の子はどちらもこれがきらいなんだって。主人公は一人は10才の男の子のゆうれいで、もう一人は10才の女の子(ゆうれいではありません)。お話は10年振りで古い洋館に女の子とお母さんが引越してきたことから始まります。さー、何故二人がクリスマスがきらいなのか読んでみてください

『やかまし村のクリスマス』(アストリック)

ド・リンドグリーン・文 イロン・ヴィーランド・絵 おざきよし・訳 1260円 ポプラ社)



やかまし村にはたった三軒しか家がありません。そこには七人の子どもたちがそれぞれ家族と住んでいます。クリスマスを前にその準備を楽しむ子どもたちの様子が描かれた楽しい絵本です。この絵本で、やかまし村の子どもたちの活躍をもっと知りたくなった子は、岩波書店から「やかまし村はいつもにぎやか」「やかまし村の春・夏・秋・冬」の三冊(大塚勇三・訳 各1995円)が出ています。

『アメリカのマドレーヌ』(ルドウィッヒ・ベームルマンズ&ジョン・ベームルマンズ・マルシアーノ・作 江国香織・訳 2310円 BL出版)

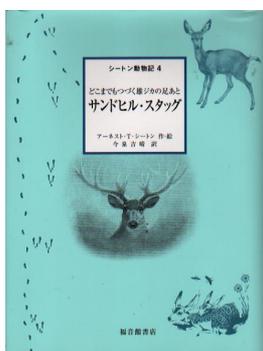
アメリカのマドレーヌの曾おじいちゃん が亡くなったたり莫大な遺産が入ることになったのです。その遺言を聞くためにマドレーヌはテキサスへ行くことになりました。十二人の子どもたちとミスクラベルも一緒に。テキサスと言えばカウボーイです。マドレーヌたちもカウボーイスタイルに着替えて、さー・・・。

この絵本はクリスマス絵本でもありません。



とくつしよくにん」と「サンシャイン」の二編も収録されています。小学校低学年ぐらいから

『シートン動物記4 サンドヒル・スタグ』どこまでもつづく雄ジカの足あと』(アーネスト・T・シートン・作 今泉吉晴・訳)



これはシートンがまだ若いころの冒険を書いた、自伝的な物語です。シートンは、森と草原からなる広大なサンドヒルで大きな雄ジカに出会い、これをどこまでもどこまでも来る日も来る日も追って行きます。サンドヒル・スタグと名付けられたこの雄ジカを追っていると、チャスカというインディアンに出会い、彼からウッドクラフト(森で生きる様々な智慧)を教わったり、(7頁へ続く)

「大型絵本」について考えてみる

まとめその1

「大型絵本」についての福音館書店書籍編集部長大和さんのやりとりは、明確な結論がでたわけではありませんが、一段落したのだと思います。なぜなら、これ以上お聞きしても同じような回答をいただくだけだと思うからです。

ぼくは今、ちよつと無力感に囚われています。それは、大和さんの回答を読む限りにおいて、福音館書店はぼくのいくつもの指摘に対して、いささかの疑義を抱くこともなく「大型絵本」の出版を続けていくだろうことが予測できるからです。

しかし、少なくとも、この論争を通じて、現在の福音館書店幹部の「大型絵本」出版の考え方や、その背後にある「絵本出版」や「読者」に対する姿勢が多少は明らかになつたと思います。

稚拙な文章にもかかわらず、これを読んでもお読みくださった方々に感謝いたします。

ここでもう一度「大型絵本」について、ぼくの側から整理してみたいと思います。

事の始まりは

今回の「大型絵本」について考えてみる「は、新館図書館（静岡市立清水興津図書館・本年6月開館）の開館準備作業のお手伝いのおり、「大型絵本」は大きいですからや

けに目に付いたことから始まりました。

「ぐりとぐら」「はじめてのおつかい」「ぞうくんのさんぽ」・・・その多くはピッポでも定番の絵本でした。ページをめぐってみると、その内容は既存の絵本と変らないもののようにでした。ぼくはこれに、なんとなく違和感を覚えたのです。このことが、「大型絵本」を正面から考える切っ掛けになりました。

「大型絵本」は店に置いてもまず売れるというような本ではないので、いままでの書店の店頭でもお目にかかったことはありませんでした。ぼくのように毎日絵本と接している人間でも、「大型絵本」を手に入つたのはこのときが初めてだったのです。

そんなことがあつた数日後、たまたま福音館書店の営業の人が店にきて、チラシ広告を示して大型絵本を幼稚園・保育園へ販売してくれないかと言つたのです。そこで、「大型絵本」についてこのあいだから感じていた疑問を口にしてみました。しかし、納得のいく回答は得られませんでした。ますます疑問は募るばかりです。

それまでは、「大型絵本」の存在をあまり意識していなかったこともありすが、これに対する他の人の発言を聞いたり、読んだりしたこともありませんでした。もしかして、こんな疑問を抱いたのは、ぼくだけかもしれないと思つたりしました。

そこで何人かの常連のお客さんに聞いてみたのです。返ってきた答えは、ぼくが問題視しているのと同じような点を指摘してくれました。疑問は、ぼくだけではなかつたのです。

そこから得た結論は、大橋巨泉ではないですが「こんなものいらぬ！」（ちよつと古いかな）だったのです。

そこで、一面識もない版元の福音館書店の編集長に「大型絵本」をどんな意図で出版しているのかを、どうしてもお聞きしたくなりしました。

お聞きする最大の理由は、この「大型絵本」が、読み聞かせ用の便利グッズとして無批判に普及されること（といつても、あとから分かつたのですが、もうずいぶん普及されています）を危惧したからです。

現在、ある種の読み聞かせブームだと捉えています。その中へこの問題を提起することは意味があると考えたのです。それならば、公開質問状のかたちで多くの人に読んでいただこうと考え、「ピッポ新聞」紙上に掲載することにしました。

問題が見えにくい「大型絵本」

この「大型絵本」が、なぜ問題であるのかをわかつて貰うのはけっこう難しいのではないかと思います。というのは、「大型絵本」は保育の現場や、図書館、学校などにとっても受け入れやすい下地が既にできあがっていると感じたからです。

その理由の一つこそが、「読み聞かせ」

ブームだからです。(ブームと表現するのは、ぼくはこれをかならずしも肯定的に捉えているわけではないからですが、それは別の機会に述べます)

今、全国の様々な場所で「読み聞かせ」は行われています。ある程度まとまった人数の子どもたち(保育の現場や図書館のお話会・クリスマス会など・またこういう機会が多くなっている)に読み聞かせる場合、読み手は普通サイズの絵本では、遠くの子には見えにくいのではないかと親心が芽生えることでしょうか。そうすると、もっと大きな画面だったらと、お考えになることは必定です。

ここで大和さんが登場するのです。「大型にする」ことで、より迫力や広がりや奥行きが増し、より細部が楽しめる」と、このセールストークを聞けば、これは便利だと飛びつく人がいるだろうことは想像に難くありません。

ね、下地は充分でしょ！

さらなる下地は、「大型絵本」は、新しく創作された絵本ではなく、既に評価されている絵本や人気がある絵本であり、貴方のご存知の絵本だからです。

大和さんの回答によると、これを「現在の最先端の印刷技術を駆使して、原本のイメージをこわさないように大型化した」わけですからね。「これもりっぱなセールストークですね。もちろん大和さんが直接セールスするわけではなく、「こどものとも社」が

このセールストークを使って売っているわけですがね。

これを聞いた貴方は、「そうだ！わたしはじめてのおつかい」が大好きだから園のこどもたちに大型で読んでやろう」とこなるわけです。しかし、実はここにこそ大型絵本の落とし穴があるし、大型絵本の問題点を見えにくくしている原因があるのだと、ぼくは考えるのです。

もしも、これらの絵本が、貴方が初めて出会った絵本だった場合のことを考えてみてください。貴方は、その絵本があらゆる意味で絵本として評価に値するかどうかを考えながら読むのではないのでしょうか。それは、まったく自然なことであり、必然でもあります。新しい絵本を手にした人はだれでもやることです。

もっと簡単に言えば、その絵本が「面白いが、面白くないか」「自分で先ず判断しますね、ところが「大型絵本」の場合、たぶん貴方は、これをおやりにならないのではないのでしょうか？

なぜなら、それは貴方のお気に入りの「三びきのごぶた」や「せんたくかあちゃん」だからです。この絵本は既に貴方は知っている(評価している)絵本だからです。

このように見てくると、「大型絵本」は良いことづくめで、あまり問題点などないようにみえてしまいます。しかし、ぼくは「大型絵本」には大きな問題があると考えました。

疑問は二つ

問題だと考えた点は、二つです。一つは「大型絵本」は大型化することで、絵本の質が変わってしまうのではないかと、という疑問です。

もう一つは、大型絵本は本当に「読み聞かせ」に必要なものだろうかという疑問です。つきつめていえば、この二点こそが、「大型絵本」の問題点なのだと思います。

既存の絵本をそのまま「大型絵本」にしても質的(芸術性や文学性)に変わらないものでしょうか？

「大型絵本」の「きよだいな きよだいな」が、こどものとも傑作集の「きよだいな きよだいな」と質的に同じ絵本だともっている方は多いとおもいます。しかし、ぼくは大型化によって変わってしまうと感じました。

その理由をいくつかあげてみます。以前に「ぐりとぐら」などの「こどものとも」のいくつかの原画を見たことがありますが、ご覧になった方も多いと思いますが、原画の大きさは、実際の絵本の大きさとそんなに変わらないものです。

それに、これまで海外の絵本の原画展を自分でも何回か開催していますから、原画の大きさと実際の絵本の大きさがどんな関係か承知しています。

ガーグの「100まんびきのねこ」も、エッツの「わたしとあそんで」も、バートンの「ちいさいおうち」も、マックロスキーの「かもさんおとおり」の原画も実際の絵

本も、大きさは余り変わらぬ(原画は絵本の120パーセントぐらい?)のです。そんなのです!画家が絵を描くときには、すでにできあがる絵本の大きさは決められているのです。(このことは、絵本作家のたむらしげるさんからいただいたメールからも知りました)

そう言えば、月刊の「こどももの」とも「は号」によって大きさは変わりませんものね。その決められた大きさの中で、画家は様々な技術や想像力を駆使して芸術的手際を読者に見せてくれるのが絵本なのだと考えています。

ところで、福音館の「大型絵本」は、画家が最初からあの大きさを想定して描いたものではありません。ぼくは、ピッポ新聞10月号で例に出した荒井良二さんのように、画家は大型絵本にするさい、手を加えたものだとばかり思っていました。しかし、大和さんのお返事では、どうやら「大型絵本」は、ただ既存の絵本を大きくしただけなようです。だからこそ、質など変わりようがないというのが、大和さんの主張なのですから。

絵本を比べてみたら

ここで、ぼくは実際に大型化された絵本と既存の絵本とを読み比べて、感じたイメージの違いや印象を述べてみたいと思います。

作品の内容はどこまでも作者のもので、自由ですが、本という形で公にされたものに批評を加えるのは読者の自由であることをお断りしておきます。

「きよだいな きよだいな」の表紙絵の場面をちよつと見てみましょう。

なにやらグランドピアノの足らしき一部分が画面の右側に描かれています。この足下には「これはなんだろう?」と子ギツネが興味津々という体で描かれています。子どもの眼はかならず、このちつちやく描かれた子ギツネに注がれることでしょう。背景には広い野原が描かれています。表紙ですからタイトルが「きよだいな きよだいな」と入っています。

この子ギツネはこの後、つぎつぎに巨大な物が登場してくる場面に必ず登場します。子ギツネは読者である子どもに興味を代表している。(子どもは子ギツネの目を透して絵本の世界に入るのだと思います)

画家はこのグランドピアノ全体でなく、足の一部を描くことで、それがどんなに大きいかを強調すると同時に、今後の絵本の展開の導入部として読者の興味をかきたてるという具合で、とても良い表紙の絵だと思えます。

ページを開いてみましょう。

巨大なグランドピアノが見開きで描かれている最初のページでは、画面の下から四分の一の所に水平線が描かれています。この水平線の位置によっても、どんなにピアノが巨大であるかが想像できると思えます。

が、その大きさには迫力を感じ、圧倒されます。

では、何故この場面に迫力を感じるのかと言え、このページでは、画面の中央下段に子ギツネが描かれているのですが、ピアノを含めたこのページすべて、この子ギツネの目線で描かれているからではないでしょうか。

この子ギツネの目線は読者である子どもの目線でもあります。ちつちやな子ギツネの目で対象物を見上げているからこそ、子どもはピアノの大きさが実感できるのです。画面四分の一の所に描かれた水平線の位置も、子ギツネの目線から見たものだったのですね。

このことから言えるのは、何も画面が大きくさえあれば迫力が出るわけではありません。

このように(子ギツネの目を透して見るということ)描いた降矢さんの芸術的手際、力量こそが、絵に幾層もの厚みや迫力を与え、読者に伝えてくれるのだと思います。

同じように、ピーターラビットの、あのミニサイズの画面から伝わってくるファンタジーの中のリアリティーや、ハラハラドキドキする緊張感、ポターの素晴らしさであって、画面を大きくしても決して得られるものではないのです。

画家がその絵の力で、子どもの想像力を喚起するのだとおもいますし、これこそが絵本の醍醐味だと考えます。

では大型絵本の同じ場面では?

大和さんは再三に渡って「大型にするこ
とで、より迫力や広がりや奥行きが増し、
細部が楽しめる」とおっしゃいましたが、
ぼくは「こどものとも」版で感じた迫力や
野原の広大さを、「大形絵本」で感じるど
ころか、違和感さえ覚えるのです。

画面をよく見ていたら、その理由の一つ
ではないかと思われることにいきあたりま
した。

大型絵本では子ギツネの目線から、ピア
ノや水平線がずれているのです。子ギツネ
の立っている位置も「大型絵本」と「こど
ものとも」版では微妙に違うのです。

元の絵本では画家は子ギツネの目線でピ
アノや水平線を描くことで、その大きさの
イメージを読者に伝えることができたのに、
「大型絵本」では、目線がずれているため
に、読者にはピアノがただ平面的に大きい
と写るだけではないでしょうか。これでは
迫力など伝わりません。

このことは数学的にも裏付けることがで
きます。

子ギツネとピアノの大きさの比率が、
「こどものとも」版と「大型絵本」では違
うのです。(物差しを当てて計りましたか
ら間違いありません。興味のある方はご自
分で確かめてください)これでは目線がズ
れるのは当然だと思いました。

これが違和感として写ったのだと思いま
す。

なぜ比率を変えたのかは、ぼくにはわか
りませんが、素人考えでは全体のバランス

との関係だったのでしょうか？

「こどものとも」版として描かれたもの
を、「ご都合主義で後から大型化すれば、ど
こかに無理が生ずるのは当たり前のことだ
と思います。このことは、絵本が芸術の一
つであるとするならば、厳しく問われなけ
ればならないと考えます。

ぼくの言う絵本の質的变化というのはこ
れを指すのです。もつとも、「大型絵本」
は大勢で楽しむのだから、そんな細かいと
ころは問題ではないというのであれば、
「そうですか」と引き下がらざるをえませ
んが、それはもう絵本などと呼べるもので
はないと思います。

ところで、蛇足だとは思いますが、ぼく
のもう一つの印象を申し上げます。

この絵本の文は長谷川摂子さんですが、
「大きな 大きな」とか「ジャンボな ジャ
ンボな」ではなく、「きよだいな きよだ
いな」としたところがすごいなあと思うの
です。この「きよだいな」という言葉は日常
では余り使うことがありませんし、まして
や、子どもの言葉でもありません。それを
「きよだいな きよだいな」としたところ
が、さすが子どもを良く知っている長谷川
さんだなと思っていました。

だがしかし、ここからがぼくの印象なの
ですが、この「きよだいな きよだいな」
は「こどものとも」版だからこそ生きてい
るタイトルだったとぼくは思うのです。大
型絵本化することにより、中身も外見も
「きよだいな きよだいな」ではあまりに
も当たり前すぎて、かえって、「大きな

大きな」や「ジャンボな ジャンボな」が
お似合いではないかと思いました。これも
大型化による絵本の質的变化？ かな？

やっぱり「一粒で二度おいしい」

ところで、ぼくは、この「大型絵本」の
画家たちが、何故大型化するに当たって大
型絵本用に描き直そうとなさらなかったの
か不思議でなりません。もともと「こども
のとも」版として描いたのであり、大型化
を想定していたものではないのにね・・・。

荒井良二さんのように、構成を変えたり
絵を描き加えるなどという気は起こらなかつ
たのでしょうか？読者として、とても、と
ても不思議でなりません。

またこのことで、ぼくは以前、昔のグリ
コのキャッチコピーを引き合いに出して、
大型絵本で「一粒で二度おいしい」のは大
人(作者・福音館・・・)であると書いた
ところ、大和さんから「作者に失礼である」
とお叱りを受けましたが、ぼくはやはり
「一粒で二度おいしい」のは大人だとい
う考えを変えるつもりはありません。

だって、大和さんの回答によると、作者
は「大型絵本」に何も手を加えたわけでは
ないのに印税がはいってくるわけだし、福
音館はこれが売れば売れるほど利益を得
ることができるとは！

続きの「大形絵本」は読み聞かせに必要
か？は、紙面の都合で次号に回します。

自身も自然から森のことや、動物の生態を学びます。やがて、雄ジカを撃つ為に追っていた彼は……。

シートンと雄ジカ、追う者と追われるものの駆け引きは、人間と動物の智慧比べでもあり、ハラハラドキドキする場面で圧巻です。一日に百キロ以上も歩いたというシートンに驚かされました。挿し絵はすべてシートン自身が描いたものです。この巻ではシートンがどのように自然と接し、どのように自然観を確立していったのかが描かれています。

小学校中学年ぐらから

『シートン動物記5 レイザーバック・フォーミイイ 誇り高いイノシシの勇者』(アーネスト・T・シートン・作 今泉吉晴・訳) フォーミイイは背中に剛毛が生えているレイザーバックと呼ばれている野生化したイノシシです。このフォーミイイがまだ赤ん坊イノシシのとき、一家がクロクマに襲われ、彼以外はすべて殺されてしまいました。



た。フォーミイイは農場のリゼットという女の子に育てられます(フォーミイイは、そこで名付けられた名前)。

とても頭が良いフォーミイイは、やがてリゼットの命を救うことになるのです。成長したフォーミイイは野性に目覚めて自然へ戻っていき、家族を得るのですが農場を

あらすよつになり、人間から追われるようになってしまうが……。

フォーミイイの誇り高い行動や勇氣は、夢中になって楽しむことが出来る動物物語です。この巻にもたくさんシートンの描いた挿し絵が載っていますが、これらの絵の随所にシートンのユーモアを伺うことが出来、とても楽しいものになっています。

小学校中学年ぐらから

《シートン動物記について》

シートン動物記はこれまでいろいろの出版社から何回も出されていますが、この福音館版のシートン動物記(既刊5巻)はこれまでのもので、大きな違いが二つあります。その一つは、動物生態学者である今泉さんが、シートンの生き方や、その生きた時代背景(社会状況、友人関係など)までも調べた上で、完訳版として出したことです。注釈などを読んでも、百科事典的な内容で単なる注釈に留まっていけないことに驚かされます。しかも子ども(小学校中学年ぐらから)でも楽しめるわかりやすい訳になっています。

もう一つは、本の随所にちりばめられている挿し絵がシートン自身が描いた絵だということ。シートンは絵の才能が認められて、イギリスへ留学している(同じ福音館から出版されている『子どもに愛されたナチュラリスト シートン』今泉吉晴著・1890円に詳しく載っています)本格的な画家でもあったのです。こんなに素晴らしい絵があるというのに、どうしてなのかこれまで出された数々のシートン動物記の挿し絵にはシートンの絵がほとんど使われていなかったのです。シートンの野性動物を描いた絵は筆使いのすばらしさや、ユーモア溢れるカットは一見に値します。これまでのシートン動物記とは違います。お薦めです。

『あさ』(谷川俊太郎・文 吉村和敏・写真 1365円 アリス館)

この本はちよつと変わっています。「左からみると絵本 右から読むと詩集 あたらしい形のビジュアルブック」とあります。だから、左からよんでいき、絵本が終わったページに奥付がありま



すが、ここが実は本の真ん中のページ。右から「朝」というタイトルの詩集を讀んできて詩集のおわるページ

も真ん中で絵本の終わったページと同じだから真ん中のページであつても奥付は何もおかしくないということになるのです。

肝心の中身を説明しないで終わっちゃいますが、絵本の方は素晴らしい写真と文の世界中の朝が進んでいく様子が描かれてい

ます。「朝」の詩集は谷川さんの「朝のり
 レー」など12編の朝の詩が収録されていま
 す。

『ポケット詩集3』（田中和雄・編者 1
 313円 童話屋）

読む者のそのときの気持ちによって、琴
 線にふれてくる詩があ
 るものだ。それにはア
 ンソロジーの詩集をペ
 ーペラとめくり、そう
 今だったら、ぼくには
 この詩がぴったりだ！



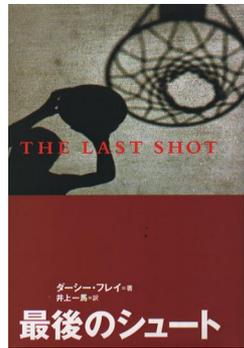
遠景

木山捷平

草原の上に腰を下ろして
 幼い少女が
 髪の毛を風になびかせながら
 むしんに絵を描いていた。
 私はそっと近づいて
 のぞいて見たが
 やたらに青いものをぬりつけているばかり
 何をかいているのか皆目わからなかった。
 そこで私はたずねてみた。
 「どこを描いているの？」
 少女はにっこりと微笑して答えてくれた。
 「ずっと向うの山と空よ。
 だがやっぱり
 私にはとてもわからない
 ただやたらに青いばかりの絵であった。」

『最後のシュート』（ダーシー・フレイ・
 著 井上一馬・訳 1575円 福音館書
 店）

これはニューヨークの黒人居住区のコニー・
 アイランドに住む高校生のバスケット選手
 をめぐるスポーツ・ノンフィクション。
 4人の有望なバスケット選手は大学からの
 勧誘をめぐって



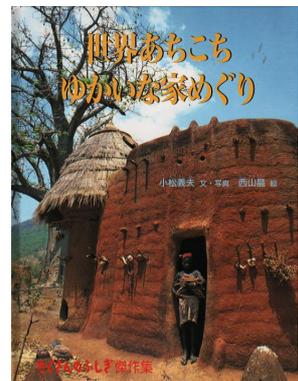
一喜一憂をする。
 この薬物汚染と
 貧困地区から脱
 出する唯一の手
 段が、大学から
 のスカウトされる
 ことだからである。著者はそんなかれらの
 家族を含めた置かれていく状況に密着して
 書いたのが本書である。

つい先日、日本でもプロ野球の大学の有望
 選手の金銭スキヤンダルが表面化したばか
 りであるが、そんな大人達の嫌らしさもこ
 の作品は余すところなく描いている。アメ
 リカでもこの国でもオリンピックを含めて、
 スポーツはきれいごとばかりではないので
 ある・・・
 中学生から

『世界あちこちゆかいな家めぐり』（小松
 義夫・文・写真 西山晶・絵 1365円
 福音館書店）

たくさんのふしぎ傑作集 世界にはいろん
 な形をした家、さまざまな材料で作った家

があるんだね。その地域の地形や、気候に
 よって形や、家を建てる場所が工夫されて
 いる。多くは昔からの智慧を積んで作られ
 てきた。塩分
 が多かったため、
 飲み水を雨か
 ら集めるため
 に工夫された
 漏斗のような
 形の屋根の家
 や地面の下にある家など驚きました。



小学校中学年ぐらいから

インフォメーション

入荷したカレンダー

- * のはらうたカレンダー 1785円
 - * 林明子カレンダー 1000円
 - * 旅の絵本カレンダー（安野光雅） 1400円
 - * 森へようこそ（村上康成） 1500円
 - * 森へようこそ・卓上版（村上康成） 1200円
 - * 14ひきのカレンダー（いわむらかずお） 1600円
- 他くまのプーさん・ピーターラビットなど輸入カレ
 ンダーも入荷しています。（次号で紹介）

クリスマスお話し会

宮崎久子さんお話しとよ読み聞かせ
 12月11日（土曜日）午後2時から
 ピッポ店内でやります